

アート泥団子ワークショップを通じた体験・交流活動の活性化

西九州大学短期大学部 幼児保育学科 春原ゼミ

1. 私たちが目指したもの

(1) ゼミの紹介

2019年から「泥団子作り」をテーマに活動を開始、今年で6年目を迎える。これまで、泥団子作りの教育効果の探求、制作技法の開発と習得、泥団子映像の提供、ワークショップの開催などをおこなってきた。

(2) 活動内容と目標

【活動内容】

地域の親子を対象として、泥団子を作るワークショップを開催する。その作り方は、砂場や園庭で作る一般的な泥団子とは異なり、日本伝統の左官の技術を応用している。学生たちのサポートを受けながら、親子で協力して、カラフルでぴかぴか光る美しい泥団子（以下、アート泥団子）を作りあげていく。

【目標】

ワークショップを通して、以下の2つの目標を達成することを目指す。

- 泥団子作りの面白さや魅力を佐賀県内に発信する。
- 泥団子作りを通して、地域の子どもたちの体験・交流活動を豊かにする。

2. アート泥団子ってなに？

日本の伝統的な壁材である漆喰を用いている。左官の技術を参考に、学生たちと2年間の試行錯誤の結果、誰でも作れる制作方法を開発した。

アート泥団子と一般的な泥団子の違いを図表1に示す。アート泥団子の魅力は、光沢とともに色の濃淡のある自然な模様が出てくる点にある。その色味や模様は団子の形状や色の塗り重ね方によって異なり、世界に1つしかない泥団子が出来あがる。

	アート泥団子	一般的な泥団子
材料	すな、土、水 + しっくい	すな、土、水
光沢	○ ぴかぴか	△ あまり光らない
色味	○ カラフル、濃淡あり	△ 土の色
模様	○ 自然な模様が出る	× ざらざら、ぼこぼこしている
再現性	× 色・模様が1つ1つ異なる	○ 同じものを作りやすい

図表1 アート泥団子と一般的な泥団子の比較

3. 親子で作ろう！アート泥団子ワークショップ

2022年1月から、ワークショップを県内で8回開催している（図表2）。開催地は、佐賀市（2回）、小城市、伊万里市（2回）、上峰町、みやき町、江北町である。これまで延べ68組の親子、157名に参加いただいた。世界に1つしかないアート泥団子を作れることから、参加者はもちろん、各種メディアからも高い評価を得ている。

2023年度は、第1回：みやき町多世代交流センター（小学生親子6組14名）、第2回：江北町みんなの公園（小学生親子6組12名）、第3回：伊万里市立花コミュニティセンター（幼児親子10組20名）でワークショップをおこなった。



図表2 ワークショップ開催履歴

4. ワークショップ当日の様子

江北町みんなの公園でおこなったワークショップの様子を、アート泥団子の制作過程に沿って、写真とともに紹介する（図表3）。



図表3 ワークショップの様子とアート泥団子の制作過程

当日は、小学生親子6組12名が参加（当選倍率およそ4.2倍）。江北町だけでなく、佐賀市、神崎市から参加したご家族もいた。どのお子さんも、諦めることなく集中の静の時間。親子で仲良く、黙々と、あっという間の2時間となった。

5. 参加した皆さんの声

2023年度、ご参加いただいた親子22組46名に、ワークショップに関するアンケートに回答してもらった。その結果を図表4～7に示す。なお、第1・2回（みやき町、江北町開催）と第3回（伊万里市開催）はアンケート様式が異なるため、別々に集計している。

【第1・2回のアンケート集計結果（回答者：12組26名の小学生親子）】

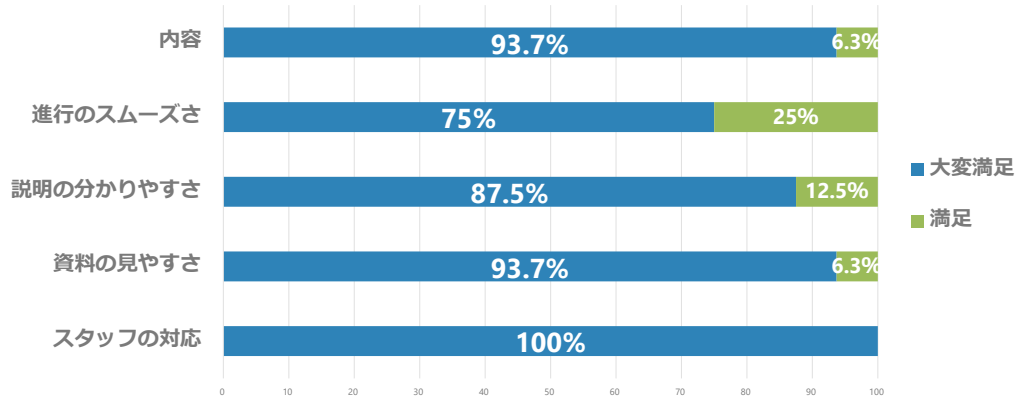
（1）総合的な満足度とその理由



- 泥団子だけでなく、しっくいの性質など勉強になることに触れていただき、大変満足しました。
- ピカピカのアート泥団子がくれたので、とてもいい思い出になりました！
- はじめはうまく作れるかなと思ったけど、**スタッフの皆さんのサポートもあって**きれいな泥団子ができてよかったです。
- 自分の手の中でピカピカになっていく過程が楽しい。
- **ずっと参加したかったイベント**だったので、作り方も勉強できて、大満足の仕上がりです。
- 家庭では準備しにくい材料のため、本当に良い体験ができたと思います。
- **子どもと一緒に無心で作業**できてよかったです。玄関に飾ります。

図表4 ワークショップの総合的な満足度とその理由

（2）運営に関する満足度



図表5 ワークショップの運営に関する満足度

（3）リピート傾向とご意見・ご要望



- ラメ入り泥団子の研究頑張ってください。
- めちゃくちゃ楽しかった。子どもも大人も夢中になれた2時間でした。参加できて本当に楽しかったです。
- おうちでも作ってみようと思いました。
- キットがあったらほしいです。またやりたーい。
- 楽しい親子の時間ができました。楽しかったです。
- 学生の皆さんもみんな優しくって、楽しかったです。
- 楽しかったので、また開催してほしい。

図表6 リピート傾向／ご意見・ご要望

【第3回のアンケート集計結果（回答者：10組20名の幼児親子）】

図表7 ワークショップの感想

No.	回答内容
1	親子でゆっくり一つの物を作る機会がなかなかないので良い機会になった。
2	楽しかった。指先やみがく時の手首を使う作業等があり様々な体験ができ良かった。
3	親子で夢中になった。楽しかったです。
4	とっても楽しかったです。
5	普段経験出来ない事が出来て本当に良かったです。
6	親子共々楽しめた。
7	子供と一緒にモノ作りする経験はなかなかないので良い機会になった。
8	子供は楽しそうだったがすぐに飽きてしまった。
9	ひび割れ、剥がれがあり想像以上に難しかった。子供が大変満足していた。
10	ピカピカの泥団子ができて楽しかったです。

注) 第1・2回とは異なり、自由記述のみを求めた。

6. 活動の成果と課題

(1) 成果

アンケート結果やワークショップでの参加者の様子から、2023年度も高い評価を得ることができた。ワークショップの総合的な満足度は、「大変満足」が100%であった。その評価の理由は、大きく3つに分けられる。それは、①ぴかぴかの泥団子が完成したこと、②親子で夢中になる体験ができたこと、③スタッフのサポートが充実していたことである。「泥団子づくりの面白さや魅力を味わってほしい」という第1の目的は、十分に達成できたといえる。

また、子どもも大人も、心と体を使って、泥団子に向き合い、没頭する活動となり、日常ではなかなか経験できない機会を創り出すことができた。団子作りを共通のテーマとして、親子間はもちろん、運営スタッフの短大生、同じテーブルで一緒に泥団子を作った他の親子との交流も深まったようである。「泥団子作りを通して、地域の子どもの体験・交流活動を豊かにしたい」という第2の目的も、一定程度達成することができたのではないだろうか。

(2) 課題

その一方で、いくつかの課題点も見つかった。1つ目は、アート泥団子作りは、幼児にとっては難易度が高いということである。第3回ワークショップ（伊万里市開催）では、対象を幼児（年中～年長児）まで拡大した。多くの子どもが最後まで粘り強く取り組んだが、途中で飽きてしまう子どももいた。やはり、メインとなる対象は小学生が適当である。2つ目は、高校生との共同運営をできなかったことである。申請時の計画では、多世代交流を図るため、高校生を運営スタッフとして迎える予定だった。しかし、高校側との日程調整が難航し、実現することができなかった。